

第9回

ゆっちみろや

オータム
フェスタ
Autumn festa
2017

絶好の晴天が祝う ふれあい祭

平成29年11月11日(土)作品展で幕を開け、13日(月)の社会奉仕団による城山神楽の後片付けまで快晴に恵まれて、各会場のイベントが順調に実施されました。

晴天にも拘わらず市内各地で開催された行事の影響もあってか、午前中の出足が鈍く心配されましたが、午後からは沢山のお客さまの来場となって7,000人を数え、いつものイベントの賑わいとなりました。会場のみならず、市役所周辺の家族連れの人波が見られて「町の賑わい」がこれほど楽しいものなのかと実感しました。

オープニングセレモニー

市役所第一駐車場のメイン会場でのオープニングセレモニーは、いつものように城山かぐらとの合同開催でした。

九州保健福祉大学のエイサーサークルによるエイサー太鼓演舞で勢いをつけたあと、高橋延岡OB会会長、山崎城山かぐら実行委員長からの主催者挨拶に続き、ご来賓挨拶で、今期限りで退任される首藤延岡市長、清本延岡商工会議所会頭、初めて参加いただくことになった竹本旭化成延岡支社長からお祝いの言葉がありました。



高橋会長のあいさつ



城山かぐらの舞込み



城山かぐら 生徒が舞う



キャンペーンモデルの
大伴さん



城山かぐらの山崎会長

賑わう会場



若者も来場



で存じ延岡の寅さんも出演



野外テント内は大賑わい



ジュニアチアリーディングの
パフォーマンス



お目当ての品を求め、賑わうお店



オープニングは九保大のエイサー

前回のオータムフェスタで山崎会長が約束してくれた、「かぐら舞い込み」は、各地の神楽の皆さんが一堂に会して総練習を行ってきたとのこと。副会長小野さんによるととても丁寧で気合の入った「舞い込み解説」に沿って、整然として熱のこもった舞い込み行列・演技は、早朝から詰めかけて頂いたお客さまの感動を呼び、拍手喝采を浴びておりました。

天聖&優奈のダンス



野外イベント会場での餅つきは 高千穂高校の相撲部の皆さんで

前回までの野地町のグループの皆さんに代わって、今回は下田市議・甲斐市議のお世話により高千穂高校の相撲部の皆さんが餅つきをしてくれました。「餅つきは初めてです」と言いながら廻し一つでついてくれました。

延岡学園のお菓子販売も例年どおり完売。こちらもお客さんの呼び込み、学生さんらしい若々しい節度ある行動を好感するお客さんに大好評でした。

軽トラ市では度重なる台風の襲来で野菜作りの難しさを痛感することになりました。

その他の加工食品販売、仲よしこよし会のバザー、キューアサの衣料品販売も好調な売れ行きでした。今年も首藤延岡市長を訪ね、バザーの売上金全額(45,900円)を兄弟都市・福島県いわき市へ東日本大震災の義援金として託しました。

一方、オータムフェスタ実行委員会では九州北部豪雨募金箱を各会場に5箱設置して来場者に募金して頂きました。集まった18,745円は夕刊デリー新聞社を通じて日本赤十字社に託しました。



仲よしバザーも大忙し



首藤市長に義援金を渡す
仲よしこよし会 山崎会長



キャンペーンモデルも餅つき



開店間際から混雑するキューアサ販売

カルチャープラザでは2日間の作品展を

今回も素晴らしい作品がたくさん揃いました。11月11日の高橋会長の挨拶でオープニング、2日間の来場者数744名の皆さんに鑑賞して頂きました。今回は作品の搬入、会場レイアウトなどが岡富OB会の皆さんの担当になり、初めての作業で大変ご苦労して頂きました。お客様の声では、「いい写真だなあ」「すごい大作ですね」「素人とは思えない」などいつもの称賛がしきりでした。

OB会員と家族の皆さんの技量は衰えるどころか、年々向上しているのでしょう。年齢はいても、変わらぬ向上心がそれぞれの作品に感じられる作品展でした。



見事な作品ばかり



作品に見入る来場者

野外ステージは恒例となった ジャンケン大会・餅まきで大盛況

すっかりおなじみになった四倉フラスタジオのフラダンスを皮切りに、全部で17の演目数でしたが、オータムフェスタ初めての出演は「西島ダンスアカデミー」の華麗な社交ダンス、「DANCE C I T E」によるストリートダンスと「A I C」によるキッズフラダンスの2チームでは、実にかわいらしい子どものほほえましい演技に会場は大喜びでした。そして、常連の延岡すみれ太鼓「あゆっこ隊」は大勢の小・中・高生による迫力ある演奏で会場が一気に盛り上がりました。

今回野外ステージの司会は、長年つとめて頂いた平野理美さんに代わってMC企画の工藤和美さんに担当して頂きましたが、さすがにプロ、見事な仕切りでスムーズなステージプログラム進行でした。

野外ステージの人気になったジャンケンゲームは、子どもさん達の負けても居残る奮戦ぶりには司会の工藤さんもタジタジ、竹本支社長を交えた餅まきも大興奮でした。



エンディングの餅まき



四倉フラの華麗な踊り



セクシーなベリーダンス

野口記念館では笑いを基調に一八会の皆さんの落語、 そして森山バンドの皆さんのエレキと津軽三味線を楽しむ

「一八会の人たちの落語はあんなに上手だったかね」そんな声があちこちから聞こえてきました。一八会の皆さんには、落語の舞台セッティング、上演のお手伝いを毎年お願いしていますが、今回は自分たちの落語を披露していただきました。私たちOBが若かりし頃、エレキバンドグループがたくさんあり、いまでも思い出すメロディーがあります。森山バンドの皆さんには、そんな懐かしい曲を迫力満点の音で演奏していただきました。途中で音楽に合わせて踊りだす人、最後は再三のアンコール要求で終了予定時間をオーバーしてしまいました。



一八会の落語



野口記念館を埋め尽くす来場者



森山バンドの懐メロ演奏



森山流津軽三味線

さあ今年は、第10回と節目のオータムフェスタ

オータムフェスタ2018は節目の第10回となります。2009年に延岡総合文化センターで第1回を開催し、第2回に「城山かぐら」とのイベント共催を決め、場所を延岡市役所周辺に移しました。この時に市役所前駐車場、野口記念館、カルチャープラザ、城山の4会場でイベントを繰り広げる現在の形が出来上がりました。

野外イベント会場の設営、イベント出演者の開拓、加工食品出店業者開拓、軽トラ野菜市出店者確保、野口記念館出演者の確保、OB会館で行っていた作品展のオータムフェスタへの移行、市役所・消防署・保健所など行政との調整、イベントのPR、すべての「祭り企画」を手探りで、夢中でやってきたと思います。

そして今、その祭りがようやく延岡市民に認知されてきたとの評価を耳にするようになりました。しかし、その反面においては、祭りを続けるこ

との大変さが実感されるようになっています。「城山神楽祭り」は今回で21回目の開催でしたが、山崎会長は「今でも、いつまで続けられるか、何をどうすれば良いのかと考える」と話されています。 私たちも、旭化成延岡OB会でオータムフェスタを実施していく意義を、再度確認する必要がありますのかも知れません。

今回は、このイベントに参加・協力して頂いた人たちの入れ替わりが多くありました。その意味では、祭りを継続しているのではなく、毎回毎回が「祭り開拓」の連続なのかも知れません。旭化成延岡OB会会員の1人1人が自分の役割をしっかりと捉え、自分で考え、自ら動くという優秀で豊富な人材をもってすれば必ず「祭りは継続できる」と信じます。OB会員の皆さんとともに、第10回記念大会を目指したいと思います。

(実行委員長：兒玉静雄)